

令和3年度 第1回京都市保健所運営協議会 摘録

令和3年12月14日（火）
午後1時30分～午後3時
京都府医師会館 2階「212・213会議室」

1 出席者（敬称略） *はWEB参加

<委員>

○ 関係団体代表委員

京都府医師会：松田 義和	京都府歯科医師会：岸本 知弘*
京都府薬剤師会：夏目 君幸*	京都市保健協議会連合会：山崎 陽子*
京都市食品衛生協会：太田 眞一	京都府旅館ホテル生活衛生同業組合：中村 貞正*
京都府公衆浴場業生活衛生同業組合：（欠席）	京都府理容生活衛生同業組合：佐藤 正一
京都府美容業生活衛生同業組合：原口 潔治	

○ 各区地域保健推進協議会代表委員

北（北医師会）：余 みんてつ*	上京（西陣医師会）：（欠席）
左京（左京医師会）：（欠席）	中京（中京保健協議会連合会）：沼田 幸夫
東山（東山医師会）：原田 剛史*	山科（市民公募委員）：入江 和栄
下京（下京東部医師会）：（欠席）	南（南保健協議会連合会）：藤井 富美子*
右京（右京医師会）：寺村 和久*	西京（西京区地域女性連合会）：安田 桂子
伏見（伏見保健協議会連合会）：小川 正雄	

<事務局>

○ 京都市保健所

京都市保健所長：池田 雄史	京都市保健所次長：谷利 康樹
京都市保健所参事：有本 晃子	

（健康長寿のまち・京都推進室／健康長寿企画課）

健康長寿のまち・京都推進室長：北川 博巳	健康長寿企画課長：工藤 直之
健康長寿推進担当課長：絹村 円	計画推進担当課長：細野 正広

（医療衛生推進室／医療衛生企画課）

ワクチン担当部長：吉田 就一	
医療衛生企画課長：中濱 正晃	感染症企画担当課長：今崎 匡裕
感染症対策担当課長：井上 ひろみ	食品安全担当課長：篠崎 史義

（障害保健福祉推進室）

精神保健福祉係長：近藤 育久子*

（子ども家庭支援課）

子育て世代包括支援担当課長：寺山 京美

2 開会挨拶

池田保健所長

3 議事

○ 議題・報告（1）新型コロナウイルス感染症に係る京都市保健所の対応状況について）

⇒ 事務局（医療衛生企画課）から資料説明。

【質疑応答】

寺村委員：右京区の場合、8月以降、集団接種会場が変更となり、葛野大路にある古い建物で実施することとなったが、とても暑く、また2階まで上がらないといけない等、様々な混乱があった。今後、安心して接種できる体制を検討いただきたい。

吉田部長：御指摘のとおり葛野大路会場は2階を会場としていたため、体が不自由な方は1階に特別室を設ける等して対応してきた。3回目接種では、右京地域体育館での接種ができるよう、会場の確保に努めているところである。

松田会長：障害者の方が感染され、在宅での療養においてお困りごとがあったと聞いているが、対応はどのようにされたのか。

近藤 藤：担当である精神保健福祉分野の業務でお伝えするが、市内にある精神科病院の实地指導時に新型コロナウイルス感染症に関しての感染症対策や課題等を管理者にヒアリングし、対応方法等について意見交換をさせていただいた。

○ 議題・報告（2）令和2年度京都市保健所運営方針取組結果及び事業実績について）

⇒ 事務局（健康長寿企画課）から資料説明。

【質疑応答】

松田会長：HPVワクチンに関して、11月26日付で厚労省から来年4月からの積極的勧奨の再開についての通知があったかと思うが、現状はどうか。

今崎課長：現在、積極的勧奨を来年度に再開できるように、対象者や通知の発送時期について検討しているが、ワクチンの供給量について不透明であるため、詳細を詰められない状況である。引き続き、情報収集に努め、府医師会、医療機関等の連携により、できるだけ多くの方に接種いただけるよう勧奨を再開してまいりたい。

松田会長：キャッチアップ接種の対象年齢が正式には決まっていない状況ではあるが、定期接種に関して、今年度中に動くことは想定されるか。対応を早めにした方が4月からの混乱も緩和されるかと思う。

今崎課長：ワクチンの供給状況が分かり次第、可能であれば一部の学年には、定期接種の御案内を送りたい。

松田会長：児童相談所について、コロナ禍では対応できない家庭に対して、何かお困りごとはあったか。

寺山課長：両親がコロナ陽性となって、児童相談所の措置で子どもを一時保護した事例がいくつかあった。市民の方に不安なくお子さんをお預かりできる体制づくりが必要である。

松田会長：保護者が重症で、子どもも軽症であるがコロナ陽性の場合、一般の一時保護施設に入れない事例があった。この場合、一般病院の入院になるが、感染対策病院が府内にほとんどないため、保護者の付き添いができないこともあって、一部の病院に負担があった。地区の保健師が一時的に付き添いされたケースがあったが、京都市では準備されているか。

寺山課長：一時保護施設の中に個室があったため、そちらの方で対応した。また、一般の児童とは別に、濃厚接触者の対応のための保育士を配置して対応した。

○ 議題・報告（3）令和2年度各区地域保健推進協議会（部会）の開催状況等について

⇒ 事務局（健康長寿企画課）から資料説明。

【質疑応答】

松田会長：対面での活動はまだ難しい。本協議会も WEB 併用で実施しており、全て対面は難しいと思うが、京都市では ICT を使った取組に向けて何か準備はあるか。

北川室長：以前は WEB 開催ができるシステムが揃っていなかったが、現在、順次対応できるようになってきている。各々のチームでも WEB での対応をしていただきたい。

松田会長：府医師会でも、市民公開講座や啓発事業等、WEB を使った取組が始まっているが、行政のイベントでも地域に対して WEB 形式でもできるということを提示していただくと、地域の先生方も動きやすいと思うので、積極的に取り組んでいただきたい。

入江委員：山科区保健福祉センターのキャット・ハンズ[※]で活動しており、コース毎に 20～30 人、週 3 回程のウォーキングをしている。マスク等の感染対策をしながら活動しているが、どのような注意をすればよいか。

※健康づくりに関する経験や知識を活かした活動を自主的に、または、区保健センターのスタッフと一緒にやるボランティア

池田：まずは体調管理である。当たり前のことだが、体調が悪い方は控えていただくのが大保健所長 事。これをやれば絶対大丈夫というのではない。

入江委員：屋外だからある程度大丈夫だとか、日本人は感染しにくいという情報もあり、少し安堵感が充満してきていると感じる。（また、ワクチン接種も 2 回終えている感有り）

池田：ワクチン接種が進むほか、医療体制も整う中で、日常生活とのバランスをとることに保健所長 おいて、感情も揺れ動いているかと思う。本市においては、まずワクチン接種を進めて、受診控えなどが起こらないようにしていく方針である。

入江委員：現在、週 3 回程度の開催だが、週 1 回にするなどの対応は必要か。

池田：気を遣い過ぎて外出できないという雰囲気も良くない。密になり過ぎないように努力す保健所長 ることで、開催頻度とのバランスも取れるし、そうした意識が大事。

入江委員：屋外は、室内よりは良いという理解でよいか。

池田：閉鎖空間よりは当然有利になる。ただ、密集しながら、立ち止まって車座になるよう保健所長 などは、いかがなものかと思う。

松田会長：ひきこもることのデメリットとのバランスを取るしかない。屋外だと感染リスクが低いのは間違いないが、絶対に感染しない方法はないと思う。個々の状況に応じて、医療機関や行政と相談し、具体的なプランニングをしてはどうか。

沼田委員：中京区も先立ってウォーキングを実施した。距離を空けるほか、グループ分けをして少人数でのプランを立て、密にならない方法で実施した。

（その他質疑 質疑応答）

余委員：北医師会の管内でも8月まで北消防署で集団接種を実施したが、追加接種は北医師会管内でもされるのか。

吉田部長：追加接種における集団接種の会場については、医療機関の皆様にごだけ接種いただけるかの意向確認を行ったところであり、その結果等を踏まえ、市民の皆様ができるだけ近い場所で接種できる体制を整えていく。北区に集団接種会場を設けるかどうかは、医療機関、特に病院等の御協力を得られるかにもよるため、まとめ次第、府医師会、地区医師会にも御報告させていただく。

寺村委員：新型コロナウイルス感染症に係る在宅療養者の健康観察業務については、訪問看護ステーションが担う形になり、右京医師会の訪問看護ステーションでも受託している。例えば委託された患者の状況が悪い場合、夜中も含めてどこに連絡をしたら良いのか。

井上課長：右京区の場合は保健所の健康観察業務を民医連中央病院へ委託しており、具合が悪くなった場合は日々連絡をいただき対応している。もし夜間に体調が悪くなられて救急を要する場合は、救急車を呼ぶようお願いしている。また夜間休日に体調について相談したい場合は「きょうとコロナ医療相談センター」の番号を御案内しており、そちらの看護師等と相談したうえで必要に応じて、救急車を呼ぶ等の対応をしている。

寺村委員：それは患者本人が連絡するのか。

井上課長：患者本人が連絡していただくようお願いしている。

寺村委員：在宅療養者に電話が通じない場合は危険な状況の可能性もあるため、訪問看護の看護師から直接連絡をしてもらってよいか。

井上課長：委託している健康観察業務はすべて日中にしており、夜間については健康観察をしていない。

寺村委員：連絡先と対応方法について考えておかなければいけない。例えば右京医師会では、チームを組んで、どのエリアに在宅の人が多いかによって、状態が悪い時はどこの看護師が見に行く、場合によってはどこの医師が見に行く、というシステムを作っておきたいと思っている。特に夜間、本人の状態が悪い場合、連絡を受けた看護師がどこに

連絡をすれば良いのかというのは決めておかないと、その状況で救急車を呼んだところでどこにも入れてもらえない。どこへ連絡し、そこからコントロールセンターへ連絡が入り、主治医と話をしたうえで、どこに入院、というところまで、しっかりと構築しておく必要がある。

原口委員：無症状の方からでもコロナは感染するのか。

松田会長：無症状の方からでも感染するケースが多発しているかと思う。

岸 本：私たちは口腔健康管理という概念を持って普段、皆さんと接しているが、まずは感染副会長 リスクを減らし、重症化を軽減させるという意味で、お口の健康は非常に大事だと思っている。手洗い、うがいと言われるが、その先に「手洗い、うがい、口腔ケア」をしていただきたいと思っている。歯科に関しては虫歯や歯周病が進んでもいきなり死に至ることはないが、そこから重症化の発端になることもあるため、まずは健康な状態にすることが非常に大事であり、サポートをさせていただきたい。様々な機会を通じて、地区の住民の方々にも啓発していただけると幸いである。

4 開会挨拶

谷利保健所次長